



コロナ禍の中でも、安心して暮らし続けられるまちづくりが、
成逸学区では行われています。

成逸学区では今日も、3密や衛生面に気を配りながらまちづくり活動が行われています。
今回は、成逸住民福祉協議会 山元会長と北総合支援学校 伊丹校長にお話を伺いました。



▲左から伊丹校長、山元会長

◎「子どもたち・保護者たちは成逸学区のみなさんに支えられている」

山元会長： 北総合支援学校は全国で初めて、都市部につくられた特別支援学校でしたね。1・2階は地域との共有スペースです。確か、140名くらいを想定してつくられたと聞いていたけれど、全校児童・生徒は239名で増加傾向でしたね？

伊丹校長： はい。近年、発達障害がある子どもたちの受け入れが増えているためです。医療的ケアが必要なお子さんもいらっしゃるので、現在、コロナ対策に最大限配慮しながら学校運営を行っています。

山元会長： この学校ができるまで3年かかった…当時、地域から様々な意見がでたからね。そこで、私たち地域役員は市内の他の支援学校を訪問させていただき、勉強しま

した。先生方から「50人に1人のお子さんは支援学校に通われるんですよ」というお話を聞かせていただき、地域の風向きも変わりだした。やはり、知らないことが壁になり、知ることによって壁は低くなるのだと思う。

地域に学校があるのはいいこと。音楽が聞こえると「何してるのかな」と人が集まるし、体育祭をやっていたら「見させて」と人が集まる。

伊丹校長： 先日、成逸女性会主催のフラワーアレンジメントに参加されたある保護者が、「本当なら我が子を地域の学校に行かせたかったけれど、病気のため叶いませんでした。でも、学校のある成逸学区のみなさんに温かく受け入れてもらっていることがわかり、本当に嬉しいです」と、涙を浮かべお話をされたことがありました。

北総合支援学校の子どもたち・保護者たちが成逸学区のみなさんに支えられていることを実感した、忘れられない出来事でした。

◎「成逸学区と北総合支援学校との『顔の見える関係』を深めたい」

山元会長： 災害時、成逸学区は北総合支援学校を避難所として利用させていただきます。同時に、北総合支援学校のお子さんやその保護者も避難する可能性がある。そうした状況の上で、今後はコロナ対策も考えなければ。コロナがなかったら、今年は子どもたちにも防災訓練に参加してもらえたらと思っていたが…。

他の区では、どの部屋で災害時要配慮者（高齢者・障害のある方などの災害時に配慮が必要な方）が寝ているかがわかる台帳をつくった学区もある。私たちが子どもたちのため、何ができるだろうか…。

伊丹校長： 子どもたちが成逸学区の方をお手伝いできることもあると思う。炊き出しをしたり、荷物を運んだり…。

—お互いに、できない部分を補い合うということ？

山元会長・伊丹校長： その通り！

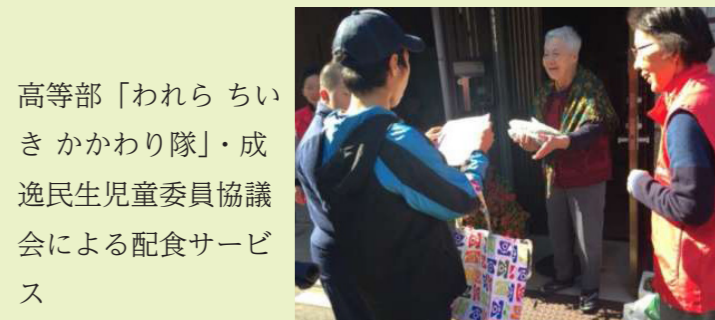
山元会長： 成逸の消防団に、校長はじめ9名の先生方に入っていて、地域にとっても安心です。成逸学区と北総合支援学校との「顔の見える関係」、これからも深めていきたいね。

伊丹校長： 避難した人がほっこりできる避難所がいいなあ。

山元会長： コロナ禍が落ち着いたら、話し合いをしましょう。



中等部・成逸女性会によるフラワーアレンジメント



高等部「われら ちいき かかわり隊」・成逸民生児童委員協議会による配食サービス



高等部・成逸女性会によるお茶の作法の教室

成逸学区・北総合支援学校では、上記のような協働でのまちづくり活動が行われています。ぜひご参加ください！



活動の内容は、コロナ禍の状況により変更となる可能性があります。最新の活動は上京区社協 (Tel:432-9535) までお尋ねください。

反対側の面も、ぜひご覧ください！

